

教職課程学生を対象としたグループワークの実践報告 3

—子育てに関する価値観について考えるグループワーク—

塩谷 隼平

要旨

本稿では、教職課程の学生が、親の子育てに関する価値観について学ぶために作成したグループワークであるエクササイズ「親が子どもに望むこと」を紹介する。本エクササイズは正解のあるコンセンサス実習であり、全国調査の結果における親が子どもに望む性格特性についての順位を、まず個人で予想し、次にグループで話し合って集団決定し、正解と比較して誤差を算出する。個人や集団での作業を通して、自分の子育てに関する価値観や、自分が親から受け継いだ価値観についてふりかえることができる。さらに、メンバー間の価値観の違いについて体験的に理解し、子育てに関する価値観は多種多様であること、良し悪しを一概に決定できないことなどについて学習できる。この視座は、将来、教員となって保護者に対応する際に役立つと考えられる。

I はじめに

1. 保護者の対応

教員の仕事には生徒の教育だけでなく、保護者の対応も含まれている。しかし、みずほ情報総研（2018）の調査では、全国の教職員の38.3%が「保護者・PTA等への対応」にストレスや悩みを抱えていると報告されている。これはストレスの内容として、「長時間勤務の長さ」（43.4%）、「職場の人間関係」（40.2%）に続いて3番目に高い割合である。また、「モンスターペアレント」という言葉が象徴するように、保護者からの過剰な要求や苦情に負担を感じる教員も少なくない。そのため、静岡県教育委員会（2020）は「学校における保護者等の対応に関する手引」を作成し、保護者との信頼関係を築くことが教育の基盤であるとし、保護者との信頼関係構築のための基本的な考え方や事例を示している。

保護者の学校への要求の背後には、自分の子どもの成長を願う気持ちと教員への期待がある。保護者との信頼関係を築くために、子どもの成長にどのような希望をもっているのか、また、そのために学校に何を期待しているのかを知ることが重要である。保護者の子育てについての価値観を知ることによって、学校に対する要求の真意が見えてくる。そして、親の本当の気持ちや要望を正確に把握することが協力関係の礎となっていく。教員には、生徒の心理だけでなく、親の心理について理解することも求められている。

2. 親の心理を学ぶグループワーク

教職課程の学生にとって、子どもや生徒の心理を学ぶための授業はあっても保護者の心理を考える機会は少ない。また、生徒への教育に関心をもって教員を目指す学生は多くても、保護者の対応をしたくて教員を志望する学生はほとんどいないだろう。しかし、将来、教員として働くうえで保護者の対応は必須であり、保護者と信頼関係を築くことは重要な仕事の一つである。本稿では、親の子育てに関する価値観について学ぶために作成したグループワークであるエクササイズ「親が子どもに望むこと」について、その詳細や実施方法を説明し、学生などの感想をもとに学習効果について考察する。

3. コンセンサス実習

エクササイズ「親が子どもに望むこと」は、「子供と家族に関する国際比較調査」（総務庁青少年対策本部、1995）と「青少年の生活と意識に関する基本調査報告書」（内閣府政策統括官、2001）における親が自分の子どもに望む性格特性についての調査結果をもとに作成した正解のあるコンセンサス実習である。

コンセンサスとは、全員の合意による決定のことであり、コンセンサス実習では、グループでの話し合いを通して集団での意思決定をすることを目的とする。合意するということは、必ずしも全員の意見が完全に一致するというわけではない。お互いの意見が違っていても合意することはできる。しかし、そのためにはそれぞれの考えていることを十分に主張し、お互いに相手の意見をよく聴くことが必要となる。相互に受容しあうことで、納得して、グループとしての結論に至ることができる。コンセンサスは決して簡単なことではないが、しっかりとコミュニケーションをとることにより、相互の理解も深まり、全員が協力して決定に従うことができるようになる。

また、図1で示したように、十分に討議したうえでなされたコンセンサスによる決定は、個人での決定や数人の権力者による巨頭会談や少数派の決定、そして話し合いをもたない多数決による決定よりも解決の正確度が高まる。課題に正解や不正解のあるコンセンサス実習の場合、しっかりと話し合うことで、個人決定よりも正解に近づけることができる。

コンセンサスによってよりよい集団決定をするために、津村・星野（1996）は、表1に示した5つの留意点をあげている。話し合いにあまり慣れていないメンバーがコンセンサス実習を実施する場合、この留意点を事前に配布したり、提示したりするとよいだろう。

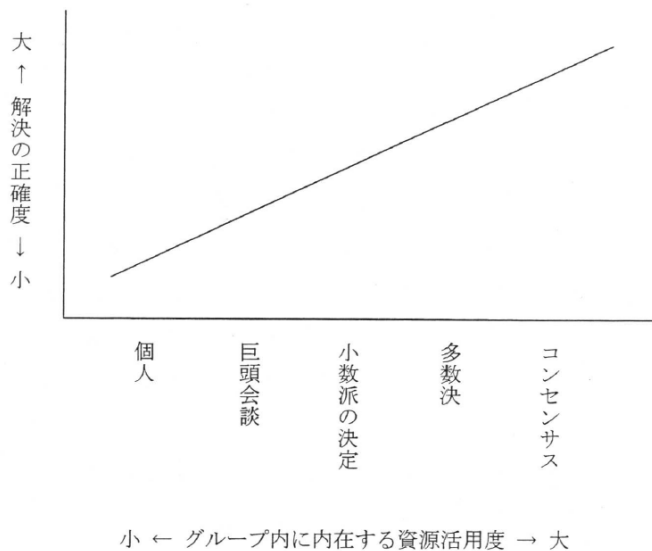


図1 グループ討議の方法と解決の正確度の関係

(出所) 津村俊允・星野欣生 (1996) 『Creative Human Relations Vol V』プレスタイム

表1 コンセンサスによる集団決定をする際の留意点

1. 充分、納得できるまで話し合ってください。自分の意見を変える場合は、自分にも他のメンバーにもその理由が明らかであることが必要です。
2. 自分の判断に固執し、他に勝つための論争（あげつらい）は避けてください。
3. 決定するのに、多数決とか、平均値を出してみるとか、または取り引きをするといったような「葛藤をなくす方法」は避けてください。また、結論を急ぐあまり、あるいは葛藤を避けるために安易な妥協はしないでください。
4. 少数意見は、集団決定の妨げとみなすより、考え方の幅を広げてくれるものとして尊重することが大切です。
5. 論理的に考えることも大切ですが、それぞれのメンバーの感情やグループの動きにも、十分配慮してください。

津村俊允・星野欣生 (1996) 『Creative Human Relations Vol V』プレスタイムから作成

Ⅱ エクササイズ「親が子どもに望むこと」について

表2 エクササイズ「親が子どもに望むこと」実施方法（90分）

時間	実施する内容
0～20	1. ねらいの説明と個人作業（20分） <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人作業用シート（図2）を配布して、個人での順位づけ ・ 4～5人のグループに分かれる
20～50	2. 集団作業用シート（図3）を配布して、グループでの順位づけ（30～40分） <ol style="list-style-type: none"> ①一覧表にメンバーの名前を記入 ②次に、お互いの順位を発表（このときに理由は発表しない） ③グループで話し合って順位を決める <ul style="list-style-type: none"> ・ 多数決や平均値を算出しての決定は禁止 ・ 少数意見を大切にす ・ 自分の意見を変えるときは理由を述べる ・ 簡単に妥協せずに、時間いっぱい話し合う
50～60	3. 正解の発表と誤差の計算（10分） <ul style="list-style-type: none"> ・ 正解を発表して、誤差を計算する ・ グループごとに誤差を発表する
60～75	4. ふりかえりとわかちあい（15分） <ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかえり用紙（図4）を配布して個人で記入し、グループ内で発表する
75～90	5. 小講義（15分） <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団意思決定についてのコメント ・ 価値観が違っていても、チームで働くために意見を同じにする必要がある ・ そのためには、自分の意見をしっかりと言い、相手の意見をしっかりと聞くことが大切 ・ 実際の現場では、話し合って決めたことに後から文句や不満を言わないようにすることが大切

1. ねらいの説明と個人作業

実施方法の詳細と90分で実施する場合の時間配分の目安を表2に示した。まず、エクササイズのねらいとして「グループでの話し合いを通して子育てに関する価値観について考えよう」などを提示する。

次に、全員に個人作業用シート(図2)を配布し、子どもに望む13の性格特性について当時の親が多く回答した順に順位を予想して、その理由を記入する。理由は簡単なもので構わないと伝えてもよいが、最後に正解との誤差を算出するため順位は必ずつけるように指示する。また、同じ順位がつかないように気をつける。

2. グループでの順位づけ

4~5人のグループに分かれて、集団作業用シート(図3)を全員に配布する。簡単な自己紹介をしながら、シートの最上段の①~④に自分以外のメンバーの名前を記入する。その後、順番に個人で予想した順位を発表し、全員が手元のシートに順位の一覧表を作成する。その際、理由は発表しない。

順位の一覧表が完成した後に、メンバーで話し合っグループの順位を決定する。話し合う前にコンセンサスによる集団決定になるように、表1を参考に話し合いのルールについて説明する。話し合いの時間は30~40分が適当である。話し合いに不慣れなグループの場合、まずはお互いの順位づけの理由を発表してから話し合いに入るように指示するとよい。話し合っ決定した順位をグループの決定の欄に記入する。グループのすべてのメンバーが同じ順位になっているように確認する。

3. 正解の発表と誤差の計算

すべてのグループの順位が決定した後に、表3にある日本(2001年)の順位を正解として発表し、集団作業用シートの正解の欄に記入する。次に、グループ決定と正解の誤差を算出し、その合計を出す(正解が7位でグループ決定が5位ならば誤差2、正解が2位でグループ決定が10位ならば誤差8となる)。同じように、自分の個人順位と正解の誤差の合計も算出する。そして、グループのメンバーの個人順位と正解の誤差の合計の平均を計算する。

次に、表4を板書などして、グループごとに①グループ決定と正解の誤差、②個人順位と正解の誤差の平均を発表してもらい、③グループ決定と正解の誤差(①)から個人順位と正解の誤差の平均(②)を引いて差を計算する。この差がマイナスになっていると、討論前の個人決定よりも討論後の集団決定の誤差が少なくなったことになり、話し合うことで正解に近づいたといことができる。最後に④グループ決定と正解の誤差よりも個人順位の誤差が少なかったメンバーの人数を報告する。この人数も少ないことが望ましいが、

もし、集団決定よりも個人順位の誤差が少ないメンバーがいたら、ふりかえりの際に、そのことについてしっかりと考えてもらう。

4. ふりかえりの記入とわかちあい

ふりかえり用紙（図 3）を配布して、まずは個人でエクササイズのプロセスをふりかえって記入する。次に、記入したことをメンバー同士で伝え合うわかちあいを実施する。

5. 小講義

最後に、目的にあった小講義を実施する。正解のあるコンセンサス実習では、充実した話し合いができる個人順位よりも集団決定のほうが正解との誤差が小さくなり、話し合うことの大切さを体験的に感じるができる。

しかし、本エクササイズの大きな目的は子育てに関する価値観について考えることであり、正解を求めることは、それぞれの価値観を表明するための手段に過ぎない。「当時の親が最も多く選んだと思われる」順位を予想して話し合うのだが、そこには受講者自身もつ子育てへの価値観や、それぞれの親などから受け取った価値観が必ず反映されている。そして、その価値観に良い悪いはなく、どれも大切な価値観である。表 3 に示したように、この調査結果には、日本の順位のほか、1995 年のアメリカと韓国のデータもある。その順位は日本のものとは全く異なっている。例えば、日本の 1 位であり 6 割以上の親が子どもに望む「他人のことを思いやる心 (63.6%)」は、アメリカでは 4 位 (26.7%) で、韓国では 11 位 (8.7%) である。これは価値観の違いであり、どの国の子育てが優れているとか劣っているとか言うことはできない。同じ日本であっても、子育てについて全く同じ価値観をもつ人は少なく、お互いの価値観の違いを尊重し、受け入れていく必要がある。このように三か国の子育てに関する違いを知ることができるのがこのエクササイズの面白さであり、全く同じ項目で比較したデータを示すために、2001 年と 1995 年というやや古い調査結果を使用している。

エクササイズ「親が子どもに望むこと」

以下の 13 項目は内閣府が 2001 年におこなった調査で、小学 4 年生から中学 3 年生の子どもをもつ母親と父親に聞いた「子どもに望む性格特性」の項目です。

当時の親が最も多く選んだと思われる項目を 1 位とし、以下 2 位、3 位・・・と 13 位までの順位をつけてください。また、その順位の簡単な理由をつけてください。

項目	順位	理由
公正さや正義感		
規則を守り、人に迷惑をかけない公共心		
忍耐強さと粘り強さ		
責任感		
他人のことを思いやる心		
協調性		
金銭や物を大切にできる心		
自分で物事を計画し実行する力		
落ち着きや情緒の安定		
独創性やはっきりとした個性		
礼儀正しさ		
指導力		
人前で自分の意見をはっきり言う力		

塩谷 隼平（東洋学園大学）

図 2 個人作業用シート

次に、グループで話し合っ、1～13位までの順位を決めてください。

- ① まず、全員の順位を発表して一覧表を作成する
- ② グループで話し合っ、1～13位を決める
- ③ 正解との誤差を算出する。グループ決定との誤差と個人決定との誤差を比較する

メンバー 項目	自分	①	②	③	④	グループ の 決定	正解	グループ 決定と正 解の誤差	個人順位 と正解の 誤差
公正さや正義感									
規則を守り、人に迷惑を かけない公共心									
忍耐強さと粘り強さ									
責任感									
他人のことを思いやる心									
協調性									
金銭や物を大切に する心									
自分で物事を計画し 実行する力									
落ち着きや情緒の 安定									
独創性やはっきりとした 個性									
礼儀正しさ									
指導力									
人前で自分の意見をは っきり言う力									
							誤差の 合計		

塩谷 隼平 (東洋学園大学)

図3 集団作業用シート

エクササイズ「親が子どもに望むこと」

<ふりかえり>

名前 _____

I. 個人で順位をつけてみて、考えたことや気づいたことは？

II. 話し合いで他のメンバーの意見を聞いたり、調査結果をみたりして、考えたことや気づいたことは？

III. あなたが、将来、教師として（大人として・・・）子どもに望むことはなんですか？

図4 ふりかえり用紙

表3 正解の順位（日本・韓国・アメリカ）

	日本（2001年）	アメリカ（1995年）	韓国（1995年）
1	他人のことを思いやる心 (63.6%)	責任感 (49.8%)	礼儀正しさ (60.5%)
2	規則を守り、人に迷惑を かけない公共心 (48.8%)	公正さや正義感 (32.0%)	責任感 (57.9%)
3	責任感 (38.8%)	落ち着きや情緒の安定 (29.4%)	規則を守り、人に迷惑を かけない公共心 (31.7%)
4	礼儀正しさ (33.3%)	他人のことを思いやる心 (26.7%)	自分で物事を計画し 実行する力 (29.4%)
5	人前で自分の意見を はっきり言う力 (23.4%)	礼儀正しさ (25.8%)	人前で自分の意見を はっきり言う力 (28.3%)
6	自分で物事を計画し 実行する力 (20.7%)	指導力 (24.8%)	忍耐強さや粘り強さ (18.5%)
7	協調性 (17.9%)	規則を守り、人に迷惑をか けない公共心 (24.4%)	落ち着きや情緒の安定 (14.5%)
8	忍耐強さや粘り強さ (16.5%)	自分で物事を計画し 実行する力 (18.7%)	協調性 (12.8%)
9	金銭や物を大切に する心 (12.7%)	独創性やはっきりとした 個性 (17.8%)	指導力 (11.0%)
10	公正さや正義感 (10.1%)	人前で自分の意見を はっきり言う力 (14.6%)	公正さや正義感 (9.7%)
11	独創性やはっきりとした 個性 (6.8%)	金銭や物を大切に する心 (14.0%)	他人のことを思いやる心 (8.7%)
12	落ち着きや情緒の安定 (5.4%)	忍耐強さや粘り強さ (9.2%)	独創性やはっきりとした 個性 (7.7%)
13	指導力 (1.3%)	協調性 (5.7%)	金銭や物を大切に する心 (6.2%)

（出所）総務庁青少年対策本部（1995）「子供と家族に関する国際比較調査」
 （出所）内閣府政策統括官（2001）「青少年の生活と意識に関する基本調査報告書」

表4 グループの発表のための表

	グループ	A	B	C
①	グループ決定と正解の誤差			
②	個人順位と正解の誤差の平均			
③	グループ決定と正解の誤差(①)と個人順位と正解の誤差の平均(②)の差(①-②=③)			
④	グループ決定と正解の誤差よりも個人順位の誤差が少なかったメンバーの人数			

グループ数によって列(A、B、C、D・・・)を増やす

Ⅲ エクササイズ「親が子どもに望むこと」の実践報告

1. 学生のふりかえり

エクササイズ「親が子どもに望むこと」を教職課程の学生に実施した際のふりかえり用紙に記入された内容から、本エクササイズで学べることについて考察していく。なお、データの使用については学生からの許可を得ている。

まず、「個人で順位をつけてみて考えたことや気づいたことは？」という質問では、「自分が子どもに大切だと思うことを上位にもってきたため、他人との関係を重視したものが上位になった。それが自分の中で大切だと思っている価値観なんだと感じた」「勉強とかスポーツが得意な子どもよりも元気で友達がたくさんいる子どもに育てて欲しいという思いから、思いやりとか協調性を上位のランクにつけていた」「自分に子どもがいたら、その子に身につけさせたいのはなんだろうと考えた」「13個の項目すべて子どもに身につけてほしいと思ったので順位をつけるのは難しかった」というように、自分自身がもつ子育てへの価値観が順位の予想に反映されたことがうかがえた。

また、「自分の親はどのような思いで育てたのか考えてみたら、やっぱり他人からの目を気にするように教えられてきたことに気づいた」「自分の親の気持ちになって順位をつけたが、どれも大事なことばかりで悩んだ」「自分が親から勉強とかスポーツよりも、人として持つべきスキルを教えられてきたと思うので、自分もそれを要求しているんだなど感じた」「自分の親に言われたことをそのまま書き出してみたが意外と正解と近くてびっくりした」というように、自分自身が親からどのように育てられてきたかをふりかえる機会になったと考えられた。

次に「話し合いで他のメンバーの意見を聞いたり、調査結果をみたりして、考えたことや気づいたことは？」という質問には、「全く違う順位になっていて驚いた」「順位が近いものもあれば、大きく離れているものもあり、やはり価値観は人それぞれなのだと思う」「子どもに求めるものと必要でないものの理由がそれぞれ違って、とても考えさせられた」「順位のつけ方が違い、自分とは違う考え方を知ることができた」「話し合いをすることは、違う視点から物事を見る事ができるし、自分の意見の良い面だけでなく、悪い面も見つけることができるので大切だと思った」というように、話し合いを通して、子育てに関するお互いの考えや価値観の違いについて体験的に気づけたことがうかがえた。

さらに、「同じ日本人であるため、親に言われてきたことは大体似ていた。相手のことを考えて行動することに関連した項目が比較的上位にあったと思う」「土地柄なども大きく結果に影響するのではないかと思った。また、海外の順位を聞いた時も、やはり教育は人格を作る上で必要となるものだと感じた」といったように、子育てへの文化や社会の影響について考えることができたと推測された。

以上の結果から、エクササイズ「親が子どもに望むこと」では、ねらいどおり、自分自身の子育てに関する価値観についてふりかえり、お互いの価値観の違いについて体験的に学習できることが明らかになった。同じ教職課程の学生でも、これだけの違いがあるのだから、教員となって出会う保護者には、本当に様々な価値観をもった人たちがいることを理解しておくことが重要である。

2. オンラインでの実施

新型コロナウイルスの影響で、大学の授業の多くはオンライン化され、2020年度は、このワークもMicrosoftのTeamsのビデオ会議を利用して実施した。事前に個人作業用シート(図2)と集団作業用シート(図3)のファイルを受講生に送っておき、個人順位を決めてもらう。次に授業時間にTeamsのビデオ会議に参加してもらい、ねらいやグループでの作業の方法を説明して、ブレイクアウトルーム機能などを使用して、受講生を3~4人のグループに分け、話し合っグループの順位を決定してもらう。対面授業の場合は5人以上のグループになってもよいがオンライン授業の場合は4人以下のほうが話し合いやすいように感じる。再度、全体のビデオ会議に集ってもらい、それぞれのグループの順位の発表、正解の発表、誤差の計算と進んでいく。オンライン上のグループ討議の様子を同時に見ることはできなかったが、グループの様子を順番に覗いてくと、それなりに話し合いが盛り上がっており、正解が存在することで話し合いがしやすくなると考えられた。もちろん、Zoomでも同じように実施できる。

エクササイズ「親が子どもに望むこと」

あなたは、自分の子どもに将来どのような性格特性をもった大人になってほしいと思いますか？ 以下の13項目について、大切だと思う順に1位から13位までの順位をつけてください。また、その順位にした理由を簡単に書いてください。

項目	順位	理由
公正さや正義感		
規則を守り、 人に迷惑をかけない公共心		
忍耐強さと粘り強さ		
責任感		
他人のことを思いやる心		
協調性		
金銭や物を大切にすること		
自分で物事を計画し 実行する力		
落ち着きや情緒の安定		
独創性や はっきりとした個性		
礼儀正しさ		
指導力		
人前で自分の意見を はっきり言う力		

塩谷 隼平（東洋学園大学）

図5 個人作業用シート（自分の順位）

- ①自分の順位を、グループの一覧表に記入してください
- ②それぞれの順位を発表して、グループの一覧表を完成させてください
- ③一覧表が完成したら、お互いの順位づけの理由を発表してください
- ④自分や他のメンバーの順位づけについて感想を述べてください

グループの一覧表

項目	メンバー					
	自分					
公正さや正義感						
規則を守り、人に迷惑をかける心						
忍耐強さや粘り強さ						
責任感						
他人のことを思いやる心						
協調性						
金銭や物を大切にする心						
自分で物事を計画し実行する力						
落ち着きや情緒の安定						
独創性やはっきりとした個性						
礼儀正しさ						
指導力						
人前で自分の意見をはっきり言う力						

塩谷 隼平（東洋学園大学）

図6 順位の発表用シート

3. 子育て支援などへの応用

エクササイズ「親が子どもに望むこと」は、もともとは子育て支援のために作成したグループワークである。母親たちのグループなどで、自分の子育てに関する価値観をふりかえり、お互いの価値観を知ることを目的に実施できる。自分が子どもに望んでいることを客観的に眺めることで、肩の力を抜き、子育てにゆとりをもたらすことができると考えられる。子どもに望む特性は子どもの年齢などによって変わる部分もあり、また変わらない部分もある。このワークを繰り返し行うことで、その時々自分の価値観について知ることでもある。

教職員や児童福祉施設の職員など、子どもの教育や支援に関わっている人たちにとっても有意義なグループワークとなる。チームで子どもを支援するためには、お互いの価値観の違いを尊重しながら、ときには意見を一致させる必要がある。まさにコンセンサスが求められる。本エクササイズでは、コンセンサスをとることの難しさや大切さを体験的に学ぶことができる。

また、グループワークの実施時間が2時間以上ある場合は、コンセンサス実習の前に、図5と図6のワークシートを用いて、子どもに望む特性についての自分自身の順位をつけて、その理由とともにお互いに発表することで、自分や他者の子育ての価値観についての学びが深まる。教員を対象に実施する場合は、個人作業用シート(図5)の教示文の「自分の子どもに」の部分に「教師として子どもに」に、児童福祉施設の職員を対象にするときは、「施設職員として子どもに」に書き換えて実施するとよい。

自分が子どもに望む特性は何か。シンプルな質問ではあるが、そこには自分もつ価値観、親から受け継いだ価値観、社会や文化による影響などさまざまことが関連しているのである。

文献

- みずほ情報総研(2018)『平成29年度厚生労働省・文部科学省委託 過労死等に関する実態把握のための労働・社会面の調査研究事業報告書(教職員に関する調査)』
- 静岡県教育委員会(2020)『学校における保護者等の対応に関する手引』
- 津村俊允・星野欣生(1996)『Creative Human Relations Vol V』プレスタイム